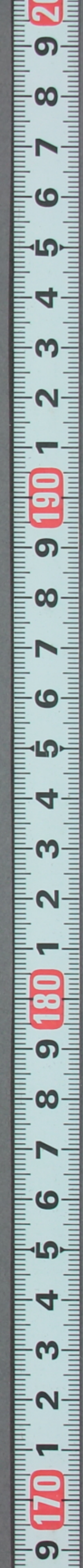


装束事

14
2478
141



裝束事

肥前入道持蓮 攝以國
枹共也

裝束最初花園左大臣有仁公

後三條院輔仁親王有仁

一指貫身入事

一淨衣身入事

一襖袴身事

一水干狩襖事

一小忌事

臨時祭大嘗會以下

一元服事

一髻鬘事



一指貫身入次第

殊口傳故実アルベシ

下袴ヲ指貫ノ縫目ヨリ、後へ五分コスベシ、指貫ハ前へ五分千ガ
 スベシ、下袴カヘスユト、^キビスノモト厚リ、一寸五分残シテ、内へ
 シリテ、前ノヌイメノトホリヨリ、モ、ダ千ノ方へ上へ七、^マ
 クニ^レラリカヘ瓜ベシ、但是ハ故實也、本儀ニハ、指貫ノ瓜ソヨ
 リ一寸五分ヲリカヘ瓜ヲ、皆内へカヘ瓜、是ハ昔也、當時ハ
 オリ千ガヘタルヨシ、若クオヒナ、人ハ、ウ瓜ク入ベシ、次第老
 者ハヤウク入ベシ、ナニトシテモアウクナル間、イカニモウスク入ベ
 シ、^レリソシワ長ク末ヲトアシテ、不同ニ入ベシ、シワハコト
 トアルガウツクシ、ナリ、ヨウロク^カワノシワハ、モ、ダ千ノ
 ハシヘオリトア瓜ベカラ、瓜、六七寸ヲクニテ、タテマ、丁ニシワノ

一 瓜ノ長クハ、昔ノ儀ニハ、一寸五分ヲリカヘ瓜ヲ、皆内へカヘ瓜、是ハ昔也、當時ハ、オリ千ガヘタルヨシ、若クオヒナ、人ハ、ウ瓜ク入ベシ、次第老者ハヤウク入ベシ、ナニトシテモアウクナル間、イカニモウスク入ベシ、^レリソシワ長ク末ヲトアシテ、不同ニ入ベシ、シワハコトトアルガウツクシ、ナリ、ヨウロク^カワノシワハ、モ、ダ千ノハシヘオリトア瓜ベカラ、瓜、六七寸ヲクニテ、タテマ、丁ニシワノ

末ヲオリテヲリトムベシニアワルシテニハカニトゞマリタルヨ
シ下袴ヲ重時シトノト重ラウスベシ入時モ、ダチノタモ
トス人ニトテヘセテ、キビルノモトス、我足ニテフマユ、左ノ袴ヲ
バ、我右ノ足ニテ右ノ袴ヲバ、我左ノ足ニテ踏ベシヨウロタワノ
シハヨリ入ベシア、下リタカキモワロシヒ、モワロシテウレシ調練
セバ可有了見

シワノ名

股タチノトアリニシワノ数多、ラバク、リノシワト云、手鞆ノ
シワトモ云、青袴ニハ必手鞆ノシワト云ベシ、下タノトアリニツト
アリタルラバエウカ、タワト云、其トアリノ前ラ、膝ノシワト云、ヨ
ウロタワノ前トモ云、ルソニセガリタルラ、追立ノシワト云、追立ノ

シワト云ハ、今チトゲルシ、夏也、タエ又クシワト云セ、ダチノル
時、ヒカレテタエ又エハナリ、其前ラ、菖蒲形ト云、是ハフタ青
袴、淨衣ニハヨシ、指貫ニハタエ又クシワノ前ト云ヨ、ナリ、ヨウ
ロダワノシワノ内ヲヨコセ、下ニシダレ、ル又ケヌヤウニアラノ、ニ
オリカヘルベシ、カ下カセ、テムルトラルベシ

ク、ハリノクミノ名

腹白ト云ハ、一筋ハ白、一筋ハ指貫ノ色ナリ、是ヲクルヤウ、ク
リセシ、上、下、ナカ、ア、ド、ラ、一、寸、ハ、カリ、ツ、ク、セ、シ、ト、ア、シ、テ、色、ア、ル
ヲ、下、白、ラ、上、ニ、入、テ、引、ル、ベ、テ、身、ヲ、入、ナ、リ、花、族、ノ、人、ハ、モ、ダ、チ、ノ
ト、ア、リ、ノ、ヌ、イ、メ、ノ、モ、ト、ヨ、リ、出、ル、花、族、ナ、ラ、ゼ、ル、人、ハ、前、ノ、ト、ア

リヨリ出爪、其組ヲニクモニ爪ベシ、藤花ノヤウナリ、カテヘテ色
ノ有ラ面ニ出セズ、腹白ハ腹黒ニ爪ベシト云クミタル分ノ長
六寸バカリ、其末ニクテゼル分色ノアルニ白ニマガルヘシ、其長七
八寸バカリ、ワナノ方ハクミトバムル所ニテトバムル、白ト色ノアル
トニテオシテハシテユイトム、此分十五以前ノ度也、十六七バ
カリテモ爪ル人アリオセナ、時ハヤワラカニクム、次第ニカタ
クムベシ、凡十六以後クリゼシノ内ヘニ筋ヲ入テ、**前**ノヨリ
出テ腹白ニクムベシ、此時ハチトシカシ、此後此定ニ出テクマ
ズシテタミラシシダハベシ、此名ヲミカシ、腹白ト云、此後子爪ヲト
テワナク内ヘ入テセ、ラ出、**尻尾**ノ長八九寸許ヲ一筋出間、
出分ハ二筋也、此ク、リハ必白カルベシ、老者ノ指費ナル故也、コ

宸翰 出シ尾
猿尾 トテ結
ノ緒ヲ四寸斗
切テ引事也、序
色ヲ替ハ六段
白ハ不結事ハ
結ハ一筋或ハ
引出テ結之
或ハ又尾十
リ中半後
一向尾之勿
論事ハ

ノ後ワナノ方ヲ出、猿ヲト云、子爪尾ヨリ短シ、四五寸、凡六十二
ナラバユムベシ、但子爪ヲセル尾ヲバ常ニハ不出、引繕之時可出、只
普通ニ常議ニハ十五アテク、リゼシノ上ヲ一寸許セシト申シテ
腹白ニクム、此後ハク、リゼシノ内ヘ入テ取出テクム、此後内ヘ入
テ取出テクテ爪、廿余ニナラバゴメク、リク、リゼシノ内ヨリ出、必
自前爪、凡花族ハモ、ダチヨリナレドモ、御所セテコノ如クナリ、
閑白家、凡人家、人ノ心ニヨリテ、自前出仁アリ、可尋、其人也。

以文云ク、リノ本様、秋

一、夕、リノ本様

一、淨衣身入次第

ク、リノシワノ所、白莞ノ願
ヤウナルヘシ

下袴ヲ皆内ヘラルベシ追立ノシワヲバ不入ヒセノシワヲバ指貫ノ
 甲ドフカクハ不入ク、リノシワハアラノト可入此シワヲト甲爪時
 丁ツ通ラミセテ手ニテ取ツメテク、リテスフベシモ、ダチノト
 甲リラス人ニトラヘセルルコト、アハヒ四寸ばかりオキテ、股ダチヨ
 リモシモへ六七寸許セゲテ、両方ノ手ニテ引ハタケテ、トラ
 へセ爪ベシセゼノシワヨリ下ナルシワヲカタク、トヨ爪ベシヨウロ
 タハラバ、ハメテ多クテロヤウニシモへタバニテセ、セガリニス、
 ノナビ、タルヤウニ入ベシ、勸ラ爪グニト甲セズシテ、シワヲベチ
 ベチニトリト甲爪ヒト、リニセ爪ニテ取ニカタク、爪へシ
 シワノ名
 ク、リノシワ 手取ヲシワト云
 ヒセノシワ

具、チノウチト云

菖蒲形 指貫ヲテシ

追立 シワハ不入指貫バカリニ可

ヨウロタワ指貫ニカハルタマ

モ、ダチノ後ニメテゼテニ、オリ折ルユ、カクシシワト云、指貫

ニナ、シワナリ、

一襖袴ノ身如、淨衣但アラノトヒ、ノトケスシク入

一水干狩襖上、水干下ニ、指貫着也スゾ、指貫ナド也、兒
 童ナトノ着、狄下具如、狩衣

一信時祭ノ小忌事

前後ノ着、様如、狩衣 前後ニカメ爪 衣文ハ身ヨリ、バカリラカ、テカイ

タクベシ、裾ヲ上手ニカクル時、腕腋袍ノ如クヒナガシララ取、小
忌ノ時右ヲカタヌグ、赤紐ハ左ニ付ニ筋也、石帯ノ上手ノ内ヲ
引トラ爪ベシ、腕腋ナル間、主臂ノヒシラヌグ羊臂アラシ、必々可出、夏モ冬ノ下
具ヲ着スル、面白儀ナリ、此公事ノ本儀、冬ナルユヘナリ、五節
ノ時ハ尤右思、ニヌグベシ

一ヒカゲノ系甘豆

冠ノ角ノモトニ青絲ニテユイ付、苔ノ子ナリ、心葉モ角ノ
ヲハ前ノカタニ、草ノオイ出ル、撫ニ付ベシ苔ヲウエベシ、青糸
ヲ答ノ様ニ付ベシ、是系也

凡小忌ノ赤紐左ニ付右ヲヌグ也、當家ニ六付子ガユベシ他家

ニカハルナリ、カタヌグ時ハ紐ヲハヅシテ小忌ガカリ、ヌグテ下具
ヲニニスベシ

一小忌 文ハ遠山ニ雉、様如持衣、紐但夕モトハ如洋衣、袖四如束帶、ミノ
下具ヲ着向ナリ、裾長下襲ニ同、短裾ノ仁モ此時ハ長裾也

臨時祭ノ小忌ノ繪様

一大嘗會、五節ノ小忌繪様

五節之時ハアナガチニカタヌガ爪、但五節ノカタヌグト云ハ

文云袍者忍
袍着之誤歟

袍者著タル時ノ事也其時ハ袍バカリヌグナリ梅ヲ付付ル

テ小草ヲ付タルヲバ小草ノ小忌ト云草ヲソラバクト摺付

ナリ

殿上ノ瀧醉如此

一凡小忌文ハ杉梅蝶小鳥ナリ

一舞人装束事

摺袴腰丸右ニ結垂ベレヒラクリノツガリノクミ片一筋ヅ

ナリ或ハ二筋ニテ片ヲツル此時両方四筋也ララメクニ

クミノセハニ露シベラ入ベレ玉ニテ上ゼル或ハ又金物ウツ

ツガリノ檢非違使アナニ彈正官ホ跨クラクル

赤紐夏陪從舞人左ニ付クセ馬ニ乗時上手ニカラム

又ハタ袖ノハタヲ一寸バカリ切テ大指ニツラヌク此時是ニ

モ金物アリ羊臂赤衣ダダハタ袖ノ金物當時無

其儀

一摺袴ノヒラクリノ本様

一使束帶

公卿使不給

御服給御下里

御表袴ナリ

一舞人青摺

小忌

桐竹鳳凰

摺袴垂繪

ラメク時年少鏡ニテ下地ヲルル也スリバカトト云ハルソ

ノ名ナリ

一陪從 青摺文

表袴

普通

一加陪從 陪從ニ同

一此日ハ舞人馬腦帶ヲ指_レ十人也六位ハ犀角ノ丸鞆布帶ヲモ指也

此日四品ノ指馬腦ヲ借用ノ心地也

一頭拵花事

使藤 陪從山吹

舞人攝 人長藤

使同

主上先黄摺染庭座御覽之時孫廂ニ出御之時ハ青色御袍ヲ被_レ者御此時六位不着凡青色袍於禁中一人着間也此日雖為四品不指馬腦帶舞人

被借間也犀角ヲ指故ハ日本國ニ馬腦十具アルヲ

舞人十人ニ被借用間也ハ具ト云説アリ

其時ハ六位布帶ヲ指

一信時祭日ハ近衛司着紫色表袴

近代無此儀

一舞人装束夏

其祭夏九時モ冬ノ下具ヲ着_レ者モ説也又夏冬着_レ一説

又夏ナレバ一向夏ノ下具着_レ一説也一向夏ノ下具ヲ着_レ小

忌テ躑躅目ハルベシ又夕_レテスル時引陪從ヲ略シテ只袖

ヲヒラク_レリヨリ出_レテ是ハ儀ナリ

一赤摺文

一赤紐夏

長一丈廣七三分中一筋ハ麩芳二筋ハ濃色ナリタミ
様ハ一寸四分ヲ四ニオリテ三分ヲニタミナシテ中ノ
ドヲニナニ結テテウ小鳥ヲアイニ書也押モルル金銀
ノハクニテモルルナリ

一五節ナドノ時小忌公御下ハ表袴也摺袴ハ凡舞
人ガナリ也

一元服次第

其我キヲニバリテニツ重テヒタヒニアテ
ウツムハニ龜居也

お乱筥廣蓋兩説小本結三筋可又之ニ筋ハ七ユイ
ワクカハタカンナカ七ユイ五令ハカリルゾニナルベシ瓜カ

以文云刀ヲ
カキテ持ト
云云

ト云之時ハカノセハ千トトロヤウナリツカノツミヤウハタカシ
ナヅクミナリハ髪ハニニワケタルフダンシニテツミテニオリ
テカヲヤカテニ持テ我方ヘハ引ナシテ引ル主ノ方ヘハ
ムケ代左ヨリハヤ瓜理髪ノヒゼノ下ニセシカウ左ノヲハヤカテ
左ニ右ヲバ右ニナリ搦手拭ハ綾ニ三ノ間也四方ナリソ
ヲ主ノ前ニヒラク元服ノ具ト云ハ小本結三筋搦三枚比
トノ搦一枚カミヒナリ三筋タカシナツミニ瓜カウカイマビシ搦一
カ一長六寸ユルツクヲ柳筥ニ瓜五打乱筥ハ猶本儀也
一瓜ル土器ノ其堂アラハ勿論ソレニ瓜ユルユルツト自余
ノ具是ト物ニ瓜ユ

親王殿下御元服夏 又在別紙

一 髻取次第

丸ル瓜ツケノ紙拾三五七
九之間丸半丸ベシ

先ニタケノ紙拾ニテ根モトユイツ瓜三丁トヒシテ一ム瓜ビニス
次ニビムブツヲ引ヒ一ラウセテ後ツヨクシメテ真ム瓜ビニ瓜其
ハニ瓜ル瓜ツケカミニ子リアリカミヒ子リ五ナラフ次ニ
アヒラアラセテ、又スルスツケラス其教ヤナルベシ取、時ハ
本儀ハ元服ノ時ノ如クアルベケレドモ、主ノ居ヤウニヨリテ
後ヨリモトルメヨリモトルベシ其主子メバ子テモトルベシ丸小
本ユイニテモト取時ハウツクハタル本儀ナル間トモカクモ
アルベシカ、ヘテ主ノムツカシク思ハヌヤウニトルベシ

此後ビシカク時、カウガイビシグシセカテニトリ、ロニテクワヘナ
ド丸ルミグルシ、夏也、カウガイノ取ヤウ書付ニ及バナ
可有口傳也、文章不足傳抄、可有他見無沙汰之子
孫ニツタフル夏アルベカラ瓜可入火中、
来随、有沙汰事、書付、
後、嵯峨院ハ

寶治以来抄共也

藤原永綱逾

貞治五年十月三日又一帖出を

連阿弥陀佛

此本民アサ輔高階盛重朝臣授平

應永十一年九月十日書寫

左京権大夫高階成春相傳

此抄伯二位忠富王以持年一續
次平深美不王他氏也

永正才三善春依

内大臣書

右一卷以肥後弓橋經亮本書寫就

吉田社神供所司藤原以

